

水害を防ぐために、住民のみなさまの安全を確保するために、大和川流域ではこうした取り組みを行っています。

■「治水対策」「流域対策」等のさまざまな対策を講じることで、奈良盆地の治水機能を補っていきます。

具体的には
このような取り組みを
行っています



河川改修 川幅を広げたり、築堤を行うなど河川改修を進めています。



ダム 安定した水量を確保し、洪水時には洪水調節を行い、下流の氾濫を軽減します。



ため池の治水利用 地域の保水機能を高めるため、大雨時に、より多くの水を貯められるよう既存のため池施設を一部改良することで、洪水時に下流域の負担を軽減します。



遊水地 河川の流水を遊水地内に越流させることにより、下流の氾濫を軽減します。



ため池の保全 ため池は雨水を貯留し、洪水を抑制する効果があります。そのため、ため池の維持保全に努めています。



雨水貯留浸透施設
敷地内に降った雨は学校のグラウンドや駐車場を利用して、一時的に貯留します。



防災調整池 宅地造成等の市街地開発では河川への流出量が増大するため、防災調整池によって雨水を一時的に貯留し、流出を抑制します。

治水対策
流域対策